

消費者団体と日本冷凍食品協会との意見交換会

1. 実施日：平成 21 年 10 月 19 日（月）
10 時 00 分～12 時 20 分
2. 場所：東京會館 11 階 エメラルドルーム
3. 参加団体：(団体名五十音順)
主婦連合会、消費科学連合会、全国消費者団体連絡会、
全国地域婦人団体連絡協議会、東京消費者団体連絡センター、
日本消費者協会
4. テーマ：(1) 原料原産地などの食品表示をめぐる問題について
(2) 中国産冷凍食品の安全性について
(3) 冷凍食品のクレームについて
7. 要約（主なご意見及び質疑応答）：
 - (1) 原料原産地などの食品表示をめぐる問題について
協会からの説明及び報告内容
 - ①主に原料原産地表示に関する二つのガイドライン（農水省と当協会）と一つの条例（東京都）について説明
 - ②表示に関する各種法令の目的及びメーカーとしての表示を含めた情報開示の実態について報告
 - ③パッケージへの原料原産地の直接表示は産地変更時期に無駄や表示ミスが発生する恐れがある。ホームページや QR コード等による原料原産地の開示では情報開示のタイミングや更新時期の判断が難しいことを説明消費者団体からのご意見、質問→協会の回答
 - ④表示について大手事業者はガイドラインや条例に対応できても中小事業者はできるのか？→中小事業者の中には対応不十分なところもあると思うので協会会員に徹底する
 - ⑤原料原産地表示は安全情報ではなく付加価値情報であるが、リスク情報として捉えられている問題がある。消費者は表示と安全を混同している
 - ⑥原産地表示に限らず、取扱い上の注意点などでもメーカーにはわかりやすい表示を心がけて欲しい
 - ⑦消費者自身も情報開示をメーカーに求めるだけでなく積極的に情報を取りに行き学習する姿勢が必要である
 - ⑧消費者が表示に何を求めているのかをもっと議論して対応すべきだ

(2) 中国産冷凍食品の安全性について

協会からの説明及び報告内容

- ①食の安全確認のため消費者団体を対象に8月に実施した中国視察ツアーの内容（工場視察、原料供給地視察、中国政府との会談）について説明

消費者団体からのご意見

- ②中国が日本向け輸出食品の安全性信頼回復にける施策や投資の徹底さには驚いた。中国には実行力があり日本も学ぶべきところも多いと思う
- ③日本より厳しいと思われる管理体制を見てきた。中国産といえども安全な商品が日本に輸入されていることを協会はもっとPRすべきだ
- ④消費者は中国産食品の安全性や管理状況を理解していないので、消費者団体と協会、場合によってはメディアとの共催で一般消費者等を対象とするツアー報告会を開催してはどうか？

(3) 冷凍食品のクレームについて

協会からの説明及び報告内容

- ①昨年、消費者等から寄せられたクレームの内容と、冷凍食品の流通上の温度管理を徹底する啓蒙活動について説明

消費者団体からのご意見、質問→協会の回答

- ②小売り店員には冷凍食品やその取扱い注意点等について必要最小限の知識を持ってもらいたい
- ③クレーム情報はメーカーにとってマイナス情報であるが、それを公開することによって消費者の信頼度が増すことになるし、消費者自身も冷凍食品を考える良い機会となる
- ④低価格化が進んでいるがコスト削減で安全や品質に影響が出ないか？→メーカーの規模を問わず、安全を犠牲にしてまでの低価格対応は絶対でない

次頁に写真掲載↓



全体風景



日本冷凍食品協会会長挨拶



参加者の皆様



参加者の皆様



参加者及び業界紙記者の皆様